



Monthly

さいがただより

National Hospital Organization Saigata Medical Center

2020年1月 Vol.28



発行：独立行政法人国立病院機構 さいがた医療センター 院長 下村 登規夫 <https://saigata.hosp.go.jp/>  
〒949-3193 新潟県上越市大潟区犀潟 468-1 TEL:025-534-3131 FAX:025-534-4824

## 〈基本理念〉「良い医療を安全に、心をこめて」

### 「一隅を照らす」

院長特任補佐 村上 優

昨年12月4日、36年間にわたって東部アフガニスタン、パキスタン北西辺境州で医療、農業、用水路・灌漑事業を行ってきた中村哲医師が亡くなった。享年73歳だった。私は先生の活動を支えるペシャワール会に関わって久しい。その日は私が自宅のある福岡で手術を受け、3週間の術後の療養を始める日だった。翌日に術後身につけていた管が取り除かれてから、病院の許可を得てペシャワール会事務局を訪れた。その時から帰国の受け入れ、葬儀、今後のことなど追われながら日々を過ごした。

中村先生はアフガニスタンのジャララバードに居を構えPMS (Peace Japan Medical services) 総院長として、現場を飛び歩いていた。その活動は報道で、またこれまでの映像が再放送されるなど初めて目にされた方も多いかもしれない。新潟には長岡で信濃川の用水路や灌漑事業や平和活動に関わられている方に求められて講演に訪れたと、私が上越に赴任するときに話されていた。

PMS病院では「誰も行かないところに行き、誰もしないことをする」と朝礼で唱和するなど、貧しい人、困難にあえぐ人に手を差し伸べる活動を旨としていた。2000年以降は大旱魃や、地球温暖化で荒々しい気候変動で翻弄される山々に囲まれた地球の片隅で、井戸を掘り用水路作り、農業を再興し、結果として1,600本の井戸を掘り、16,500ヘクタールを灌漑した。アフガニスタンと言えば戦争ばかりが注目されるが、地球規模で生じる矛盾のすべてがここに現れている。その中で「一隅を照らす」と36年間を過ごされた。アフガニスタンを去るとき中村先生の棺をガニ大統領自ら担いで葬送していただいた。このような日本人がいたことを知っていただきたい。私はPMSを支えているアフガニスタン・スタッフに求められ中村先生の後を継いで総院長となるよう背中を押された。とてつもない大きな存在のまえに身の小ささを憂う間もなく、中村先生の導きに従うことにした。今はこころの中にいる中村先生と対話を繰り返して、彼の残した最善の道をたどろうとしている。

## さいがた医療センター アディクション研修会のご案内

さいがた医療センターでは、アディクション分野のフロントラインに立つ講師陣を迎え、研修会シリーズを開催しています。医療福祉関係者を対象とした研修ですが、どなたでも参加できます。どうぞふるってご参加ください。

詳細はQRコードよりご覧いただけます。

[https://saigata.hosp.go.jp/addiction/addiction\\_pg9.html](https://saigata.hosp.go.jp/addiction/addiction_pg9.html)



参加無料

「独立行政法人 国立病院機構 さいがた医療センター」

## 依存症専門医療機関・治療拠点機関に指定されました 精神科診療部長 佐久間 寛之

当院は、新潟県より「アルコール・薬物・ギャンブル」の3領域全ての依存症専門医療機関・治療拠点機関として指定されました。

お酒の問題だけでなく、違法薬物や処方薬依存、ギャンブル・ネット・ゲーム依存など、依存症全般を対象に診療を行っています。ご本人、ご家族からのご相談はもとより、行政機関からのケース相談にも対応しております。また、各依存症に対して治療プログラムの充実を図っており、認知行動療法のみならず、ヨガやスポーツ、筋トレなど多彩なプログラムを日々更新し続けています。医療福祉関係者、教育関係者などを対象に、プログラムの見学も受け付けていますので、どうぞお気軽にお電話をください。ホームページからもお申込みいただけます。

## クロザピンの治療状況 薬剤科

平成30年8月から治療抵抗性統合失調症の患者さんに対してクロザピン治療を開始しました。現在24人の患者さんが服用しています。

令和元年12月新規0例、累計31例(1月6日現在)

## 神経難病医療 脳神経内科

当院の脳神経内科は80床あり、主にパーキンソン病・脊髄小脳変性症・多系統委縮症・筋萎縮性側索硬化症の薬物調整・リハビリテーション目的の入院を受け入れています。

また、地域包括ケアシステムの実現に向けて退院支援に力を入れており、多職種で協働するためにカンファレンスの充実を図り、患者さんにより良い援助・支援の提供を心がけています。地域における神経難病中核病院としての機能充実に努めています。

空床情報: 1月6日現在 9床

## 放射線画像診断の受入(共同利用) 診療放射線科

当院は、CT(80列)、MRI(1.5T)、そして上越地域では数が少ないSPECT装置を有しており、検査結果がすぐわかります。

この画像診断体制で、国立病院機構の役割の1つ「地域での医療の提供」の一環として、地域の医療施設からの検査依頼もお受けしています。お急ぎの場合には当日検査にも対応しています。ぜひご利用ください。

12月実績 MRI 6件、CT 0件、SPECT 0件

## 認知症医療 心理療法室

精神科、脳神経内科及び内科の各担当医師が連携して、幅広い視点から原因となる病気の特定に努めております。

また、当院にはCTスキャン、MRIが設置されており、脳波計を用いたより精密な検査や臨床心理士による神経心理学検査も実施可能です。お気軽にご相談ください。

## デイケア リハビリテーション科

当院では、社会生活機能の回復を目的として難病や精神障がいを持つ人のデイケアを実施しています。難病デイケアは、毎週月・水・木に実施しており、身体機能の維持・向上だけでなく、仲間づくりも支援しています。

精神デイケアは、毎週月曜日から金曜日まで、精神障がいの回復途上にある人が社会の中で自立した生活ができることを目指して実施しています。見学や相談、参加希望の方はお気軽にご連絡ください。

## 訪問看護 看護部

地域で安心して生活するために入院時から関わらせていただき、医師、ケースワーカー、作業療法士と連携しながら、病状や服薬に関する支援、家族への支援など、利用者の方に必要な支援を行っています。訪問は看護師の他、必要に応じてケースワーカーも同行し、書類作成や社会資源の利用などについても支援させていただきます。

## 重症心身障がい医療(ショートステイ) 療育指導室

当院の重症心身障がい病棟では、「医療型短期入所」(通称:ショートステイ)の受入れを行っています。当院のショートステイは、在宅で生活されている重症心身障がい児者を対象に、申し込みいただいた一定期間を病棟でお過ごしいただき、食事のほか、ご利用の曜日等によっては入浴や日中活動も提供しています。また、日帰り利用や他の通所事業所の利用後に宿泊を伴う利用等も可能となっています。

利用される方や地域のニーズも取り入れ、利用しやすいサービスが提供できるよう取り組んでまいりますので、お気軽にお問い合わせください。

ショートステイ: 12月延べ42日 空床情報(長期利用: 1月6日現在 3床)



**外来担当医表**

←こちらのQRコードより  
ご覧いただけます